

1 研究主題

社会的事象を多面的にとらえ、社会的な見方・考え方を深める子どもの育成
～資料からどのようにして、何を読み取らせるか～

2 研究の概要

研究主題に迫るために、「新たな教材開発」と「授業研究」の二点から研究を推進した。教材開発については、地域巡検という形式で、地域との結びつきが強く、教材としての価値が高い上越新幹線燕三条駅を取り上げた。また、授業研究では資料の読み取りを促す効果的な発問と学び合いを活性化する授業の在り方について授業参観をとおして協議した。

3 研究の実際

(1) 部会組織の確立と予定確認

4月16日(水)、弥彦小学校を会場にして、正副部長の選出と、研究主題の設定、活動計画の立案を実施した。

(2) 新たな教材開発(地域巡検)

6月4日(水)、上越新幹線燕三条駅構内の見学を実施した。当日は、見学だけでなく駅長様から直接説明をしていただき、施設設備の概要はもちろんのこと、通常運行の仕組みや危機管理等についても知る事ができた貴重な体験となった。



(3) 資料の読み取りを促す発問と学び合いを中心に据えた授業研究

12月3日(水)、松長小学校の水澤恵美教諭(4年担任)による授業研究を実施した。単元は『大河津分水建設の歩み』である。

① 授業の構想と実際

第一次工事中の中止、横田切れ、第二次工事という歴史的な流れは理解できるものの、その背景にある当時の人々の思いや願いに触れることは難しい。そこで、『もし自分が当時の人だったら、第二次工事に参加するか、しないか。』という二者択一の発問で授業を構成した。児童は、自分の立場を明確にし、与えられた資料の中から、考えのもととなる根拠を見つけ出していた。

② 学び合いの実際

自分の立場を明確にして発表するとともに、他の児童の考えについての検討場面も多くみられ、活発な学び合いが成立していた。しかし、資料をもとにした根拠ではなく、主観的な考えでの発言も見られた。

③ 授業構成についての検討

子どもの問いを生む発問は大切であるが、根拠となる事実に基づくことが社会科の特性である。そのためには、意図的・計画的な資料の準備が不可欠である。また、指導と評価の一体化による具体的な働きかけも事前に準備しておく必要がある。



4 成果と課題

毎年実施している地域巡検の成果を、新しい単元として教材化していくことが課題である。教材にするための教師による事前学習と焦点化が必要である。授業研究においては社会科の基礎・基本を踏まえたねらいの明確化、「資料提示と発問」をセットにして吟味していく必要がある。